

## 1. 平成29年度の事業報告

平成29年度は指定管理運営の第3期3年目において、理念である「ほっとけない」課題に対して「ほっとかない」社会環境づくりに向けての方針を継承しながら、下記3項目を指針として事業に取り組んだ。

- ① NPO・市民活動のパブリック・リレーション力向上（組織情報開示と活動内容発信）
- ② NPO・市民活動のインフラストラクチャー及びキャパシティービルディング
- ③ NPO・市民活動を支える仕組みの構築  
（寄付文化醸成、潜在的関心層・無関心層へのアプローチ）

＜各分野別主要業務内容報告＞

### 1. 新情報ポータルサイトの運用強化(情報発信の拡充)

- ・本格的に稼働した情報ポータルサイトを利用団体にも各自が入力することで情報発信の機会を迅速に行い、自団体の情報発信の主要ツールとしてフル活用してもらう運用推進を図った。
- ・また、情報ポータルサイトの主軸としてSNS(フェイスブック等)との連動による情報発信の拡充も推進した。

### 2. 広報誌媒体の改編コンセプトの継続

- ・機関発行誌「hotpot」での制作コンセプト「ほっとけないをほっとかない」に基づく編集内容構成を実施した。

◇Vol.66号(夏号)

- ・NPO・市民活動においてよく使われる「カタカナ・英語表現」にフォーカスし、意味・語彙について「わからない」を「ほっとかない」の趣旨にて必携の冊子として制作した。
- ・発行後、外部へ約9,000部を配布した。

◇Vol.67号(春号)

- ・W.メレル・ヴォーリズ夫妻を題材に、普段、気に留めない建築物にも、そこには歴史的な事実があるだけでなく、豊かな暮らしを願う人々の営みや活気あるまちづくりへの取り組みなど「ほっとけない」という思いからの自主・自発的な市民活動の種があることを見出す内容とした。
- ・発行後、外部へ約7,000部を配布した。

### 3. 講座内容の編成

- ・今年度、最も画期的な変革として、市民活動での「支援者層・理解者層」を育成する内容にて内容を編成し、新しい講座として『市民公開講座』を実施した。

◇「クリスマス・チャリティー・コンサート」12月10日開催。

- ・京都プラスバンドの協力のもと、ひと・まち交流館京都にて初めてのフルバンドによるコンサートを開催した。
- ・市縁堂の寄付文化醸成施策とリンクさせ、コンサートに参加する一般市民に寄付について気付い

てもらおう意図を込めて開催し、約250名の参加者を得た。

◇春の市民公開講座2018年3月17日に2部構成で開催。

- ・第一部「注文をまちがえる料理店のつくりかた」

講師：テレビ局ディレクター 小国士朗氏

- ・第二部「明治・大正・昭和を生き抜いたヴォーリーズ夫妻の生涯」

講師：(株)一粒社ヴォーリーズ建築事務所 顧問 芹野与幸氏

- ・一般市民(潜在的関心層)に向けて、参加しやすい題材をテーマに講話の中から社会課題への気付きを促し、市民活動への導入口として開催し、新しい切り口からの市民活動への導入ができた。

#### 4. 「市縁堂」運営編成の充実と集客増進

- ・寄付文化醸成を目指して、「市縁堂」開催意義を一般社会に広めることを基幹とし、団体の活動の認知度を高めることを目指した事業展開を実施した。
- ・実行委員会形式の事業運営を継続し、本年度は2名の新規委員が加入して、専門性を生かしたプログラム作りを行った。
- ・プレゼンテーション形式のプログラム構成から団体の活動参加による実体験からの社会課題への気付きを促す構成を組み、プレイベント(事前活動参加)や活動体験コーナーの設置は、だれもが参加して気付きを得られる内容が、参加者の幅を広げた結果となった。
- ・運営では学生ボランティアにも参画を求め、若者への関心度向上施策も実施したことにより、今後の市民活動団体の人材育成につなげることができた。

#### 5. 情報コーナーの有益利用推進

- ・フロア内一面にある「情報(図書)コーナー」収集情報の活用性や必要性を再検討したうえで、コーナーレイアウトの編成と共に有効利用施策を協議した結果、団体の活動の場(実施場所)としての運用を進めることとなった。具体的な活動内容は次期に向けて検討していく。

#### 6. 人材育成

- ・各職員の基礎能力・応用能力強化につながる施策として、以下の事項を実施した。
  1. 理事と職員による個別メンター制度の導入にて、各職員の働き方や業務内での課題について、アドバイスを受け、今後の業務遂行での助力となった。
  2. 全職員による外部宿泊研修の中で、全国の公設民営施設について、個々に分析・研究の発表を行い、施設のサービス向上において業務実施の意識向上を促すことができた。
  3. 相談業務の中から事例検証に基づき、職員間での勉強会を開催することにより、相談対応でのスキルアップにつながっている。